

農地バンクを活用し、遊休農地の解消と地域担い手への農地の引き継ぎ

「取組のポイント」

○参入法人等への農地の集積と地域の担い手への農地の引き継ぎ

地区の概要

安波地区は、基盤整備が進み、機械化作業に適した農地であるため担い手への集積が期待されるが、農家の高齢化や後継者不足等により一部が遊休農地化。イノシシによる農作物への被害が拡大しているため、遊休農地の解消が喫緊の課題となっていた。そこで、農地バンクを活用して地域外からの参入法人等への農地集積に取り組み、遊休農地の解消と、将来的に地域の担い手への農地集積を支援。

取組の内容

- 農地バンクは、国頭村に対し、**本地区の遊休農地の解消と併せた農地中間管理事業の活用を提案**。一方、**地域外の法人から機械化に適した遊休農地の借受希望**があり、農地バンクは**本地区とのマッチングを実施**。
- 参入法人自身で遊休農地(5.5ha)を解消した後、県農業研究センター等の関係機関連携による土壌改良を行い、さとうきび栽培を開始。法人はスマート農業の導入にも積極的であり、自動操舵システムを活用したさとうきびの植付等の実証にも取り組んだ。
- 参入法人には、再生した農地(5.5ha)を地域の担い手へ引き継ぐ意向もあったことから、**国頭村と農地バンクで連携し、新たな担い手の掘り起こし**を行い、**参入法人と調整が整った一部の農地(2.5ha)**を農地バンク介して転貸を行い、地域の担い手へ農地の引き継ぎを行っている。
- 製糖工場における原料(さとうきび)の安定確保のため、**参入法人と地域の担い手が連携・協力し、地域ぐるみでの生産体制を構築**した。

取組の成果

- 遊休農地の解消
→5.5ha



- 地域の担い手へ転貸
→2.5ha



農地バンクを活用した
「遊休農地解消と地域の担い手への農地の引き継ぎ」のしくみ

